



sapporo
education and culture hall
news

raku

LE POLYGRAPHE

SAPPORO

11.19 wed.

[インタビュー]

ポリグラフ - 嘘発見器 -

太田 緑
ロランス

INTERVIEW
with
Ota Midori Laurence



©引地信彦

LE POLYGRAPHE

太田 緑 ロランス インタビュー

想像力をかき立てながら
つくる稽古場は
まるで「実験室」のようでした。

初演の時は、幕が開くまでまったく観客の反応が想像つかなくて。普通の舞台とはちょっと違う作り方だったので、なにもかも手さぐり状態。不安でしたね。でも終わってみると、思った以上に好評だったみたいです。この舞台のお話の筋そのものは、とてもシンプルなものなんです。女優、犯罪学者、ウエイター、3人の登場人物の人間関係が描かれていくんですけど、物語は時系列ではなく、時間も場所もバラバラになんかぎ合わされていくんです。現在からいきなり回想シーンになったり、時には回想ではなく、だれかの頭の中で考えていることだったりします。いつのまにか別の登場人物の視点になっていたりもするんです。映画のワンシーンや「ハムレット」の一場面など劇中劇も入ってきて、観たひとは最初「?」ってなるかもしれないんですけど、それが想像力を刺激する、意外性のある舞台になっていると思います。

舞台を作っていく過程も、かなり実験的だったと思います。普通、台本には具体的なト書きがあつて、それに沿って創っていきますが、このお芝居は照明とか、衣装とか、芝居の質などをどうすれば台本の世界観を成立させられるのか、全く未知数でした。でもそれが逆に私自身の想像力をすこくかき立ててくれました。演出家であり登場人物の一人でもある吹越さんは、アイデアの引き出しを沢山お持ちなだけではなく、そういった出演者やスタッフの意見を拾ってまとめあげるセンスがすごくある方です。映像や音楽、照明などいろんな方法を試して、どうすればこのシーンが伝わるのか、そんな実験みたいなことの繰り返しで、実は演技などの芝居作りの時間が短くなってしまつて。そこは大変でしたけどすごく刺激的でした。私たちがポリグラフという台本をたたき台にして、という風に演劇遊びをしているのか、というところを一番観て欲しいし、舞台ってこんなに自由でおもしろいものなんだって楽しんで欲しいですね。私の父の故郷はフランスで、私は生まれも育ちも札幌なんです。再演となる今回の公演は初日がパリ、千秋楽が札幌ということ、なんだか運命的だなと思っています。芝居の中の役どころも女優と、現実の自分とリンクする部分もたくさんあつて、とても思い入れのある舞台になっています。札幌のみなさまに、ぜひ観ていただけたらと思います。



polygraphe

ポリグラフ — 嘘発見器 —

演出 / 吹越 満
出演 / 森山 開次、太田 緑 ロランス、吹越 満
2014年11月19日[水] 19:00開演(18:30開場)
札幌市教育文化会館 大ホール

[チケット取扱] 教文プレイガイド TEL.011-271-3355
大丸藤井プレイガイド、道新プレイガイド
チケットぴあ、ローソンチケット



[あらすじ]

ケベック(カナダ)の小劇場の女優で、舞台や映画のオーディションを受け続けているルーシー。しかし、ようやく手に入れた役が実際に起きた事件で殺された女性の役だったことが分かる。殺された女性の元恋人であり、当時容疑者としてポリグラフ(嘘発見器)のテストを受けた政治学の学生フランソワ。ベルリンから逃亡し、フランソワのポリグラフテストを担当した犯罪学者デヴィッド。フランソワが研究するベルリンの壁と、デヴィッドの検死報告で語られる殺傷箇所=体節間膜(心臓を二分し、血液を通さない壁)、ルーシーが舞台上読み上げる「ハムレット」のセリフがリンクし、奇妙な偶然により出会った3人が親密になるにつれて、その関係がミステリアスに展開していく。

Interview

[インタビュー]

ポリグラフ — 嘘発見器 —

太田 緑 ロランス

Ota Midori Laurence

Profile

北海道札幌市出身。フランス人の父親と日本人の母親との間に生まれる。早稲田大学第一文学部在学中より、モデル、舞台、映画など、ジャンルを問わず積極的に活動開始。2010年、NODA・MAP番外公演「表に出ろいっ!」で、中村勘三郎と野田秀樹の娘役を演じる。主な出演作は、NODA・MAP「南へ」、新国立劇場「城」(作:フランツ=カフカ 構成・演出:松本修)、日仏共同制作「Understandable」(作:前田司郎、イキウメ「ミッション」)(演出:小川絵梨子)、岩松了3本連続公演「センター街」(演出:倉持裕)、世田谷パブリックシアター「審判」【失踪者 AMERIKA】(構成・演出:松本修、Bunkamura「もっと泣いてよフラッパー」)(作・演出:串田和美)、TVDドラマにNHK「ハゲタカ」など。

さっぽろオペラ祭 2014

SAPPORO OPERA FESTIVAL 2014

北海道二期会創立50周年記念事業
F.ショパン 原曲 / G.オレーフィチェ 作曲

「ショパン」北海道初演 全4幕 (イタリア語上演・字幕付き)

すべてのテーマをショパンの数々の作品から借用し、
「ポプリ形式」で綴られた名曲の数々。

39歳の若さでこの世を去ったショパンの生涯を、ショパンゆかりの地、ポーランド、パリ、マヨルカ島を舞台に、ピアノとオペラの協演で追想します。ピアノ好きの方はもちろん、初めてオペラをご覧になる方にもおすすめ！北海道二期会がお贈りする、新たな音楽の世界。どうぞお楽しみください。

10月12日(日) 13:30/18:30 開演
10月13日(月・祝) 14:00 開演 (全3回公演) **小ホール**

※開演30分前からプレトーク(作品解説)及びPTNA推薦の子どもたちによるショパンの小品の演奏を行います。

指定席 4,500円(子ども 3,000円) 自由席 3,500円(子ども 2,000円) ※中学生以下は子ども料金



2013年度公演「不思議の国のアリス」

北海道二期会

TEL.090-6266-5313 (専用携帯)
<http://www.hokkaido-nikikai.com>

札幌オペラスタジオ
G.ドニゼッティ 作曲

「愛の妙薬」全2幕 (イタリア語上演・字幕付き)

オペラ初心者にも♡超オ・ス・ス・メ♡
愛の妙薬でオペラの虜。

惚れ薬「愛の妙薬」とは、実はボルドーの安ワイン。
美人のアディーナと彼女に恋する不器用な青年ネモリーノ。
偽りの惚れ薬、愛の妙薬によって結ばれる？ ラヴ・コメディ♡

11月7日(金) 18:30 開演
11月8日(土) 16:00 開演 **小ホール**

11月6日(木) ワンコイン公開舞台稽古(学生限定先着100名)
全席指定 S席5,000円 A席4,000円 学生2,000円



札幌オペラスタジオ

TEL.011-685-3779
<http://www.sos-opera.com>

北海道教育大学・実験劇場 Vol.2
ベルゴレージ 作曲 / パイジェロ 作曲

「奥様女中」

貴方は、ベルゴレージとパイジェロ
どちらの「奥様女中」をご覧になりますか!?!

1733年に公開されたベルゴレージのオペラ「奥様女中」は西欧で旋風を巻き起こし、ルソーやモーツァルトのオペラにも多大な影響を与えました。それから48年後、ナポリ派を代表するパイジェロがベルゴレージと同じ台本で果敢に挑んだ「奥様女中」を当時の楽譜を基にスコアを起し、二作品の比較研究を試みます。

11月20日(木) 19:00 開演 **【ベルゴレージ作曲版】**
11月21日(金) 19:00 開演 **【パイジェロ作曲版】**

■第1部 レクチャー 19:00~19:20 **小ホール**
■第2部 オペラ公演 19:35~20:30

入場料無料(要整理券) 10月7日整理券配布開始(先着順) (配布場所) 北海道教育大学札幌駅前サテライト、教文プレイガイド、北海道教育大学岩見沢校
※未就学児童入場不可、小学生は保護者同伴で入場可。



北海道教育大学・実験劇場

TEL.0126-32-0310
(北海道教育大学岩見沢校広報室 地域連携グループ)

PICK UP EVENTS

[教文主催事業ピックアップ]

ぜひ、もっと身近に

オペラを感じてみて下さい!

今年で9年目を迎えるさっぽろオペラ祭。オペラをこどもから大人まで楽しんでいただける公演やワークショップを開催しています。本格的なオペラ公演からワンコインコンサートまで、いろいろな企画を用意してお待ちしています。



さっぽろオペラ祭 2014

お届けコンサート

9月~11月

普段なかなかコンサートに出かける機会のない方へ歌をお届けするこの企画。歌い手が小学校や高齢者施設を訪れ、オペラの一場面を披露したり、唱歌などなじみ深い曲を皆さんと一緒に歌ったり、工夫を凝らし楽しい時間をお届けします。

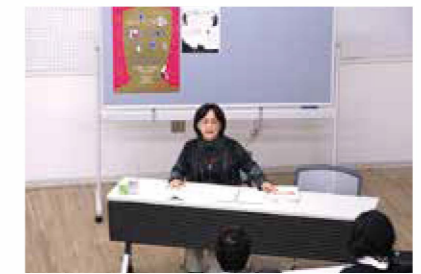


さっぽろオペラ祭 2014

オペラ分析講座 シュトラウス「ばらの騎士」

11月16日(日) 14:00 研修室401

作曲家ならではの視点で講師 岩河智子がオペラを解説します。今回取り上げるのは、生誕150年を迎えたりヒャルト・シュトラウスの代表作「ばらの騎士」。ストーリーだけでなく、音楽に込められた魅力を、実際にピアノでメロディーを弾きながら楽しく紹介します。

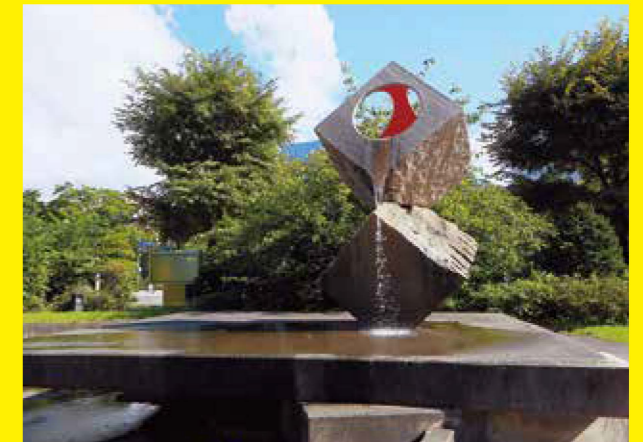


KYOBUN



志水晴児 (1928-2005)
Shimizu Seiji

東京生まれの彫刻家。東京芸術大学彫刻科を卒業後、行動美術協会に参加。石の野外彫刻を得意とした。



湧水彫刻

[設置:1980年]

入館者を出迎えるかのように札幌市教育文化会館の正面に座す石の作品、「湧水彫刻」。このふたつの御影石から成る彫刻の上部は丸くくりぬかれ、内部は赤く塗りが施されています。一体、どんな意味が込められているのでしょうか。かつて、この辺り一帯はシャクシコト二川の水源の一つだったと言われています。厳しい冬の間も凍ることがなく、絶え間なく澄んだ水が湧き出でるこの場所で、さかのぼり終えた鮭は最後の力を振り絞り、卵を産み落とすとしていたのではない。作者の志水晴児はそんな想像をめぐらし、鮭の卵、「イクラ」をイメージして石を球形にくり抜き、川の水源をあらわす水が湧き出でる仕掛けをしつらえしました。この街で暮らす人々が、この場所です晴らしい作品を生み続けて欲しい、そんなメッセージが聞こえてきそうな佇まいを、一度じっくり眺めてみてはいかがでしょうか。

丸くくり抜かれた作品、その意味とは?

小林エレキ(劇団yhs)から指名→

さっぽろ 演劇人

No.002

ひこ そ よし ゆき
彦素由幸

劇場だけが舞台じゃない。
いろんな芝居のたのしみ方を
伝えていければ。

彦素 由幸 プロフィール

1986年、札幌生まれ。演劇企画
運営団体 札幌ハムプロジェクト副
代表。すがの塾第3期参加を経て
2007年より同団体に所属。2009
年より日本縦断興行に参加。

SAPPORO ENGEKIJIN HIKOSO YOSHIYUKI

札幌発の名作舞台を再演する「札幌演劇シーズン」。年々リピーターを増やし続けるこの企画の2作品に出演した役者がいました。札幌ハムプロジェクト副代表、彦素由幸さんです。

「こういいうドサ回りをしているのって、僕たちも含めて日本に3団体しかないって言われてい



「演劇を始めたのは?」
「高校生の時、役者が足りな
いからと演劇部の友人に声を
かけられたのが始まりです。
大学でも学内の演劇サークル
に入ったんですけど、ちょっと
自分には合わなくて。それで
他の劇団を覗かせてもらって
いるうちにすがの公さんの主
催していた劇団SKグループ
や若手を育てる演劇塾に参加
するようになりました。すが
のさんの舞台そのものが面白
かったし、一年に打つ公演の数
が多いのがすごくいいなって
思いました。役者は人に観ら
れてなんぼですから」

「全国を回って、いろんなお客さんの前で演じて思ったんですけど、やっぱり役者は本番の数を多く経験した方がいい。札幌での公演の機会をもっと増やしていきたいし、劇場だけではなく、居酒屋とかちよつとした場所で自由に作られて観られる芝居も増やしたい。いろんな演劇の楽しみ方があるんだって、伝えていきたいですね」

「劇団ではなく、演劇企画運営をうたう「札幌ハムプロジェクト」では、人材育成、地域演劇の活性化をはかる様々なプロジェクトが行われており、彦素さんはその中でも全国を旅芸人のようにまわる「日本縦断興行」に毎年参加しています。

「日本縦断興行」、おもしろ